

第5学年 図画工作科授業実践事例

1. 活動の指針（活動を通して育てたい力）

c—つくる喜び

表したい思いに合ったつくり方や表し方を進んで試したり、つくったり作り直したりしながら、自分の思いを形や色でつくりだしていく喜びを味わうことを大切にしていく。

2. 題材名 「未来へのメッセージ ～2009年11月11日、ぼくたちはここにいる～」(絵に表す)

— 12時間扱い —

3. 活動の指針と題材のかかわり

子どもたちは、図画工作が好きな子が多く、毎時間喜んで取り組んでいる。特に、材料とかかわり、思いをふくらませながら表現する活動が得意である。そのものの持つ色や形にとらわれず、形や色の組み合わせを楽しんでいる。一方、一学期に行ったカッターやはさみを使った題材（アニメーションボックス）では、道具の使い方に慣れていない子が多くみられた。また、家庭科での基本的な縫い方や算数のコンパスの使い方などを見ているが、道具を使う経験が少ない子が多いことが分かった。

また、普段の生活の中では、男女の仲が良く、けんかやもめ事が少なく穏やかに生活している。しかし、友だちとのかかわりが薄く、協力して物事に取り組むことが苦手である。

そこで、今回は版画に取り組もうと思っている。版画は、どの子でも自分の思いを込めて彫ることで、迫力のある表現に仕上げることができる。子どもたちを夢中にさせる要素を持っている。版画を夢中になって製作することで、彫ることや刷ることに必要な道具に習熟してほしい。

〔共通事項〕

ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。

イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

4. テーマにせまるための具体的な手だて

(1) 視点1「思いをふくらませる」

○一瞬の気持ちをとじ込めた作品を未来の自分へプレゼントするという設定をすることで、子ども達の思いは十分にふくらんでいくものと考え。未来の自分に伝えるために今の自分を思いを込めて彫ることだろう。

そして今後、作品は時を超えて20歳の時にやってくることに思いをはせるだろう。

○版画の特徴である、同一性や複数性（同じ作品をいくつもつくることことができる）を利用して、友だちと協力して作品を仕上げたり、友だちの作品と自分の作品を交換したりしながら、友だちとのかかわりの中から思いをふくらますことができる。

(2) 視点2「思いをかたちにする」

○彫刻刀の特徴を参考作品を基に説明し、また彫りながら参考作品を基に刀の効果を実感させながら自分の作品に活かすように指導する。

○下絵の構図指導では、子どもの下絵を拡大コピーするなどして、実際に拡大したコピーを並べながら子どもと考えるようにする。

5. 題材のねらい

○友だちと共に活動することや自分の思いをふくらませながら表現することを楽しむ。

○自分のイメージを効果的に表すために、道具や形や色などの表現方法を工夫する。

6. 題材の評価規準（重観点◎）

	造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
評価規準	○彫り方や刷り方など様々な方法を試したり、やり直したり、自分の表現を振り返る。 ○友だちと共に活動することを楽しむ。	○今まで経験してきた彫りや刷りの技法や表現から発想し、自分にあった表現を構想する。	◎自分にあった表現を効果的に表すために彫り方や刷り方を工夫し作品に生かそうとする。	○自分と友だちの表現のよさや違いに気付き表現活動の楽しさを感じ取る。

7. 準備

《児童》 彫刻刀、新聞紙

《教師》 インキ：水性インキ 用紙：版画用紙、練り版、ローラー、バレン、長机、カッター版、カーボン紙、油性フェルトペン（中太）、雑巾、新聞紙

8. 指導と評価計画（12時間扱い）

時間	○活動内容 ☆★予想される子どもの姿	◆教師の働きかけ 【評価規準】 評価方法
1 次 9 0 分	<p>版画の良いところって、どんなことだろう？（版画の複数性・同時性を紹介）</p> <p>○今までの経験から、版画の楽しいところ良いところを考 える。 ☆今までの経験から、版画の経験を振り返り、その良さを 思い出そうとしている。</p> <p>記念すべき11才の版画を未来の自分にプレゼントしよう！</p> <p>○未来の自分に伝えたいことを想像し、イメージを広げ る。 ☆今までで一番楽しかったこと、未来の自分の姿など未来 の自分へのメッセージを考えようとしている。</p> <p>未来の自分へのメッセージを版画に表そう！</p> <p>○未来の自分へ、一番伝えたいことを下絵に表わしてみよ う。 ☆版表現の特徴（左右が反対になる、白と黒のバランスな ど）を考えながら、下書きをしている。</p> <p>○今までの経験や木版画の作品から彫刻刀や彫り方を選 び、自分のイメージに合うように彫る。 ☆友人の作品や見本の作品を見ながら、彫り方や彫刻刀の 選択を考えている。【発】</p> <p>○友だちと協力しながら、きれいに刷る。 ☆イメージに合わせて、紙やインキの色などの組み合わせ を工夫しようとする。 ☆友だちと協力して、木版にインキを付けたり、紙をおい たりしながら、活動を楽しんでいる。</p> <p>未来の自分への手紙を書こう。友だちの作品や手紙も自分の封筒の中に入れてもいいね。</p> <p>○未来の自分（友人）へのメッセージが伝わるように又早 に表す。 ☆未来の自分への思いから、発想をひろげ、手紙に表すこ とができる。 ☆友だちの作品に関心を持ち、コメントを書いてあげた り、手紙を書いてあげたりしている。</p> <p>未来ポストにどんな作品を入れたか、みんなに紹介しよう。</p> <p>○友人が未来の自分にどんな作品を送っているのかその 良さや違いを味わう。 ☆いろいろな表し方の違い、友だちの表現のよさに気づい ている。</p>	<p>◆版画のよさを想起できるよう今まで取り組ん だ紙版画や木版画を見せる。 【関】 発言・つぶやき</p> <p>◆9年前の版画集をみせ、作品集に載っている 作者は20歳であることを伝え、今どんなこ とをしているか投げかける。 【発・技】 アイデアスケッチ・活動の様子</p> <p>◆自分のイメージ通りに表現できるよう、自分 あるいは友だちにポーズをやってもらうよう アドバイスする。 ◆絵に表現するのが難しいものは、本を見たり、 友だちに協力してもらって描くことを勧め る。 【発・技】 アイデアスケッチ・活動の様子 ◆参考作品を数多く用意し、子どもの思いを形 にできる手立てを作品を基に助言する。 【関・発・技】 版木・活動の様子</p> <p>◆子どもたちがスムーズにすることができる場 を用意する。休み時間も自主的に取り組むこ とができるように刷り場を常設する。 【関・発・技】 版木・活動の様子</p> <p>◆未来ポストを用意し、その中に入れることで 未来へ送るという思いをふくらませる。 ◆友だちと十年後の自分に届くことを意識さ せ、文字を丁寧に書く様に声かけをする。</p> <p>友だちの作品を紹介する場を用意することで 友だちの表現のよさを実感するようにする。 【鑑】 発言・ふりかえりカード</p>

